

えびな大也

後援会通信 No. ⑫

えびな大也後援会事務所
〒085-0847 釧路市大町1-1-10大町ビル3階
電話:0154-44-4500 FAX:0154-44-4505
E-mail:ebina@marimo.or.jp
発行/えびな大也後援会事務所

ともにつながり、
ともに築く
まちの「未来」
域内関連で
つながるまちづくり

域内連関のしくみ



テーマを共有し
行動



地域のつながりや
信頼関係が強化



持続可能な
地域社会へ

人口減少によりまちの活力が減退し、世帯構成や生活様式の変化により、地域のつながりが希薄になっています。時代の変化に対応し、持続可能な地域とするためにも地域資源を活用し、最大限の効果を発揮する都市経営の視点が重要になってきます。

地域内の様々な主体がテーマを共有し、地域資源を生かしながら、付加価値の創造や地域課題の解決に向けて行動する考え方が「域内連関」です。

域内連関に取り組むことで、地域のつながりや信頼関係が「層深まり、観光産業や地域のコミュニティ、防災、福祉など様々な分野に大きな力を発揮します。もちろん釧路市が考える域内は、釧路市内を基本とし、広域的視点からひがし北海道を想定しています。域内連関は、無理をして行うのではなく、それぞれできることを考えるのが重要なことなのです。

「目指すべきまちづくり」に向け、皆さんが生まれ、育ち、生きがいを持って暮らすための基盤となる地域社会の構築に取り組み、市民の皆さんとしっかり共有し、各分野における施策、事業を着実に推進し、目指すべきまちづくりの実現に努めて参ります。

二〇一九年 えびな大也

魅力あふれる釧路を発信！

観光立国ショーケースや国立公園満喫プロジェクトと国の施策のもと、観光振興の取り組みが盛んに行われています。Wi-Fi(ワイファイ)の整備などによるストレスフリーな環境づくり、動画によるPR媒体への発信、アイヌ文化の磨き上げなど官民が一丸となって進めています。



釧路と関西を結ぶ ピーチ

昨年8月に釧路―大阪（関西）線（LCC）に新規就航した格安航空会社ピーチ・アビエーションの昨年12月までの平均利用率（搭乗率）が、約75%と当初の目標を上回っています。定期便を就航させたことをきっかけに、大阪と釧路の交流が活発化しています。



世界三大夕日が見られる街、釧路

その夕日を一目見ると感動する！インドネシアのバリ、フィリピンのマニラと並ぶ釧路の夕日。特に美しいとされるのが幣舞橋から見る夕日です。ツアー客や写真愛好家が集い、オレンジ色に輝く夕日と日没後の空が真っ赤に染まる夕焼けは独創的な景色といえるでしょう。



アイヌ文化の世界観を堪能！

アイヌ文化への国内外からの注目が集まる中、より多くの皆さんにアイヌ文化に触れ、深く理解してもらうため、阿寒湖アイヌシアター「イコロ」の演目を一新。ダイナミックな音響、鮮やかな色彩とともにデジタルアートとアイヌ古式舞踊を融合した「ロストカムイ」を制作。3月19日より上演を開始しています。

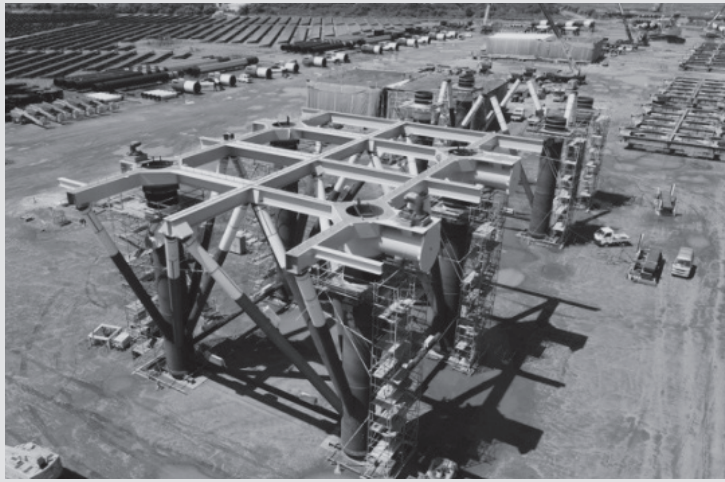


長期滞在、北海道1位の街、釧路

7月、8月の平均気温は21度前後。東京、大阪などと比べると10度以上の差があります。日本有数の漁港であることから魚介類の食べ物もおいしく、周囲には温泉も多数あり、過ごしやすさ抜群。この涼しい釧路での長期滞在は数年前より人気で、2011年度から7年連続で全道第1位です。涼しさが何よりごちそうである釧路をこれからもPRして参ります。



鋼管杭打設状況



ジャケット製作状況

バルク整備事業に技術賞

釧路港西港区第2埠頭の国際物流ターミナルの整備事業が、公益社団法人日本港湾協会の日本港湾協会技術賞に選ばれました。整備主体である釧路開建、釧路市、ターミナルを管理運営する釧路西港開発埠頭が応募し、全国8件の中から受賞しました。ターミナル整備にあたっては、荷役機械に免震構造を採用、ベルトコンベヤー直下のコンクリートの強度を高めるため、鉄筋はサビの恐れがあるため炭素繊維を採用。災害と塩害に強い造りにしたことが受賞につながりました。



表彰式:令和元年5月22日

2014年度より西港区第2埠頭地区で大型船の入港に対応する国際物流ターミナル整備事業に着手してきました。

釧路港の後背地である道東エリアは、全国有数の酪農地帯で、飼料の原料となるトウモロコシは北海道全体の5割近くを釧路港が北米からパナマックス船(パナ運河を航行可能な巨大船舶6万トン)で受け入れています。

しかし、近年の船舶の大型化で、貨物を満載した状態では入港できず、貨物量を減らしたり、他の港に分散させたりと非効率的な輸送形態でした。

このため国は2014年から総事業費約182億円を投じ、整備事業を開始。

従来、水深12メートルだった釧路港西港区第2埠頭の沖合いに水深14メートル、全長300メートルの岸壁や停泊地を整備しました。

また、1時間当たり800トンという従来の2倍の処理能力を持つ穀物専用の荷役機械「アンローダー」と、穀物を直接サイロに送るベルトコンベヤーを設けました。

これにより、大型船による穀物の一括大量輸送が実現したとともに、複数港に寄港していたことによって生じていた輸送コストの削減にもつながったのです。

今年3月30日に供用を開始した「国際バルク戦略港湾」。サイロ増設や新工場の建設も進み、将来的には酪農飼料以外にも豚や鳥の飼料を輸入することも視野に入れています。

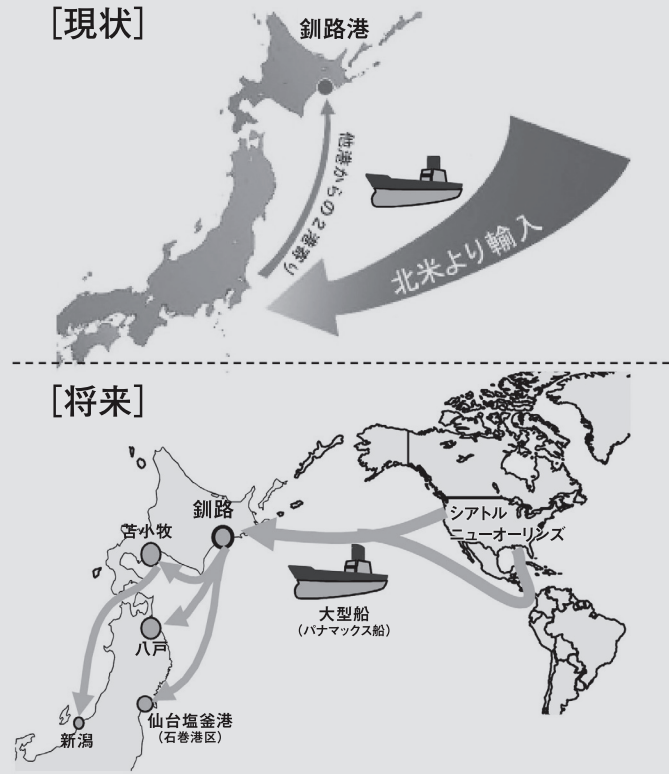
輸入の安定化や道内産業の発展につながるとともに、釧路港の新たな時代へとつながっていくことでしょう。



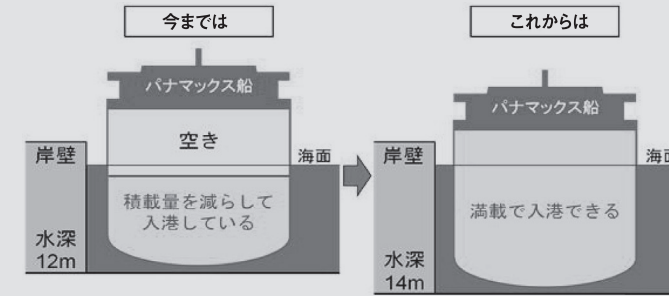
ジャケット据付作業



最終ジャケット据付作業



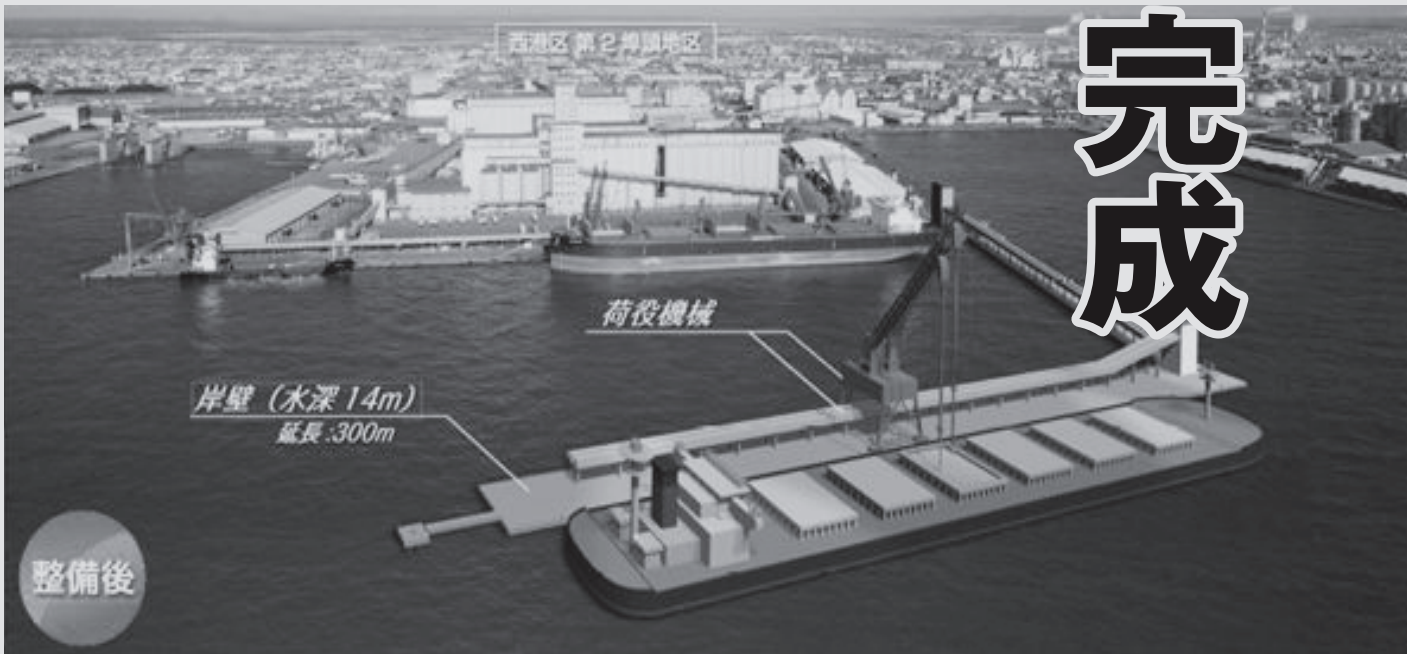
- [効果]
- ・大型船での穀物一括大量輸送を可能とする効率的な海上輸送網の形成
 - ・連携対象港との2港・3港寄りを通じた海上輸送コストの削減



●バルクとは、梱包されずにそのまま船積みされる貨物のことです。

2011年、国土交通省は国の産業や国民生活に欠かせない物資である鉄鉱石、石炭、穀物の安価かつ安定的な輸送を実現するため、国が指定する国際バルク戦略港湾として全国で10港、うち穀物を扱うのは5港。北海道では釧路港だけです。

全国初！ 穀物の輸入拠点 が完成



整備後イメージ